

# 県内4校がセミナー

教育現場での新聞活用の可能性を探るNIE(教育に新聞を)セミナーが9~12月、県内の実践指定校のうち



教育に新聞を

4校で開かれた。県内の教育界と新聞・通信9社でつくる県NIE推進協議会(会長・本田裕紀熊本市立五福小学校長)が毎年実施しており、18回目。熊本地震をテーマに生徒らが取材した創作劇や地域、社会の課題について考える授業など、新聞を深い学びに生かした多彩な取り組みを紹介する。(伴哲司、西山美香)

# 紙面通して 未来考える

## 震災復興取材重ね劇に

御船町の御船中(作田潤一校長)は、熊本地震をテーマに被災地取材に奔走した熊本日日新聞の記者や、復興に携わった町内外の人たちを3年生が2年がかりで取材。創作劇や壁新聞にして10月の学習

発表会で披露し、働く意味や新聞の役割を考えた。取材は昨年9月、道徳副読本「つなぐ」熊本の明日」で紹介された山口和也・熊日常務取締役を同校に招き、講演を聞くことからス

タート。山口常務は熊本地震当時、編集局次長として記者の指揮にあたったことや、記者らが自らも被災しながら、地元紙の使命感を持って取材にあたったことを紹介し「働くとは単にお金をもらうためではなく、社会に貢献する重要な営み」などと話した。

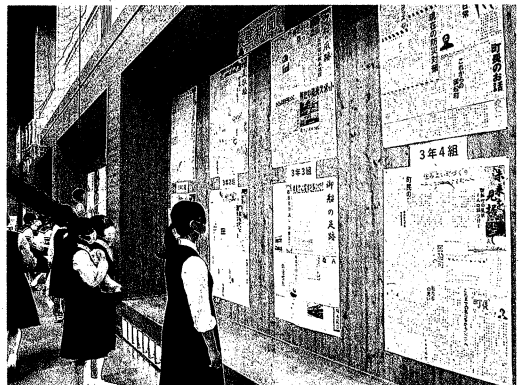
その後、生徒たちは藤木正幸御船町長や町職員、ボランティアなど復興に奔走した人々を取材。仕事への思いなどを聞き取り、脚本を書き上げた。取材にあたって、熊日スタッフがインタビューの仕方などを指導した。

### 御船中(御船町)

劇は将来の夢に思いをめぐらす中学生タケシが、熊日記者やボランティア、町職員らが誇りを持って復興に取り組んだことを見聞きし、「私も周りの人を笑顔にできる、誇れる自分になりたい」と決



熊本地震での熊日記者の奮闘を軸にした劇を披露した御船中3年の生徒たち(御船町)



「熊本地震」「御船町の未来」をテーマにクラスごとに壁新聞を作り、発表した

意するストーリー。震災直後の熊日編集局で慌ただしく記者が取材に向かう様子などを熱演し、生徒や保護者、住民が大きな拍手を送った。

タケシ役を務めた福岡一希さんは「劇づくりのための取材を通して、町の復興の裏にいろんな人の努力があったことがあらためて分かった」と話した。

壁新聞はクラス別に「熊本地震」と「御船町の未来を考える」の2テーマで発表。「熊本地震」では被災当時の様子や藤木町長のインタビュー、町の防災対策などを幅広く紹介した。「御船町の未来を考える」では、高齢化や交通量の増加などを問題提起。レイアウトや見出しなどで工夫を凝らした新聞が並んだ。

同校では「読解力と社会への関心を高める新聞活用」をテーマに、1分間スピーチやワークシート、熊日「読者ひろば」への投稿など多角的な新聞活用を展開。全国学力・学習状況調査で「読むこと」に関する問題の正答率が全国平均を上回ったほか、生徒アンケートで「夢や目標の実現に向けて努力している」との回答が増えるなどの効果がみられた。

学習発表会後の報告会で、NIE担当の反後彰一朗教諭は「生徒が新聞を通してさまざまな考え方を、生き方に触れ、夢を語るようになった」と報告した。

日本新聞協会NIEアドバイザーの廣松正景・合志市立合志南小主幹教諭は、「生徒らが取材や劇・新聞づくりを通して社会への参加意識を持ち、自分の将来や進路を考えている。社会に開かれた教育にNIEを活用した好例」と評価した。(開催日は10月15日)

## 米大統領選の陰謀論 分析



### 熊本高専八代キャン

八代市の熊本高専八代キャンパス(高松洋校長)では、リベラルアーツ系「公共」で、1年生約130人が2020年米大統領選の新聞報道とネット情報を比較。当時のトランプ大統領の主張や、同氏支持の背景にある「陰謀論」についてグループごとに発表した。

米大統領選では、野党民主党政権の政治家らが反トランプの一環として「陰謀論」を仕掛けていると主張する陰謀論がSNS(会員制交流サイト)を通じて流れ、「Qアノン」呼ばれ勢力を拡大した。生徒らは遠山隆淑准教授の指導で、熊日や全国紙の報道とネット上の情報を比較。「新聞はトランプ派、バイデン派双方の